

第2節 活用の現状と課題

磯浜古墳群の活用面に関しては、活用事業内容別に分けて、令和元年度の国指定以後の成果を現状として整理した上で、課題を抽出しておきたい。

区分	対象	現状	課題
学校教育	小学校	・大洗小学校4～6年生のクラブ活動(①)や、歴史を学ぶ全6年生を対象とした古墳マップの配布、企画展に合わせてGIGAスクール授業などを行っている。	・古墳群や埴輪を学べる機会は、年間では限定的である。
	中学校	・事業は未着手だが、郷土愛を育てる上で、地域の遺跡や文化財に関する学習が必要と認識されている。	・外に出かける時間が取れないのが実情である。
	高等学校	・県立大洗高等学校では、『総合的な探求の時間』の一環として、大洗地域の磯浜古墳群をテーマに学んでいる(②)。	・古墳群や埴輪を学ぶ機会は、一部の生徒のみである。
	大学	・茨城大学人文社会科学部人間文化学科の学部2～4年生の授業として、磯浜古墳群の調査(③)、あるいは保存と活用の実践を学ぶカリキュラムがある。	・断続的な実施であり、継続的に実践していく必要がある。
生涯学習	公民館講座	・特別講座として町民を対象に年1回開催。磯浜古墳群を学ぶ歴史講座が開設され、10数名が座学と現地を見学する(④)。	・開催に当たっては、多くの町民の参加を促す必要である
	高校生会	・大洗町在住の高校生を中心とするボランティア団体で、様々な生涯学習活動に参加している。過去の夏季企画展では、展示室受付やワークショップの準備、古墳グッズの陳列や販売を手掛けた(⑤)。磯浜古墳群の埴輪を知り、活かされる場面を経験する機会となっている。	・会員の積極的な活動を維持する必要がある。

表4-12 活用の現状と課題1 (指定地全体)

区分	対象	現状	課題
生涯学習	各種団体講座	・令和2年7月7日公民館講座「知求人講座－大洗井戸端会議－」、令和2年9月23日男女共同参画「きらきら大洗ネットワーク研究会」など。	・史跡指定後、生涯学習活動を実践する各種団体が、古墳の価値を伝える講座を開催したが、断続的である。
	自己学習	・『いばらき古墳旅まっぷ Vol. 01・02』のマップ類の作成や考古学企画展のパンフレットの配布は、磯浜古墳群を身近に感じる機会を提供し、自ら古墳に足を運ぶ自主学習の機会を生んでいる。	・自己学習に結び付くように、身近な刊行物を今後とも定期刊行する必要がある。
地域振興 ・観光	史跡探訪	・磯浜古墳群の史跡探訪は、町教育委員会主催事業の他に、茨城県内の公民館講座・歴史愛好家やハイキングなどの市民グループ・高等学校史学部など、多様な団体による見学会が開催されており、その数は正確には把握しきれていない(⑥)。	・磯浜古墳群の史跡探訪に際しては、経路案内が不十分な地点があり、迷う可能性がある。
	企画展	・平成29年度以降、毎年開催。年1回夏季に行う埋蔵文化財企画展は磯浜古墳群や埴輪を様々なテーマで展示し、町民の郷土愛の醸成や大洗町外からの観覧者を招き地域振興や観光に繋げている(⑦)。	・企画展開催時のアンケートには、期間限定の企画展だけではなく、磯浜古墳群の埴輪や副葬品などの常設展示を希望する意見が多い。
	シンポジウム	・毎年、磯浜古墳群を核としたシンポジウムを12月に開催して5回を経過した(⑧)。聴講者数は増加しており、定期的で開催することで、大洗町と古墳とを結びつけるイメージが定着してきている。県内在住者の割合が増加しており、県民を中心に磯浜古墳群の周知が進み、一定数のファン層が開拓されている。	・開催後のアンケート結果にも12月のシンポジウムの継続を望む声は多いので継続していきたいが、今後は古墳を扱った多視点のテーマの設定が必要になってくる。また、興味関心の低い層への裾野を広げる方策が必要である。

表4-13 活用の現状と課題2 (指定地全体)

区分	対象	現状	課題
地域振興 ・観光	グッズ製 作販売	・磯浜古墳群オリジナルトートバック や姫塚古墳・日下ヶ塚古墳の古墳クッ ションなどが開発、販売されており、 古墳に接近する間口を広げている(⑨)。	・多くのファン層を取り込むた め、今後更なるグッズ展開は大 切である。
	キャラク ター	・大洗町公式キャラクターアライッペ の古墳バージョン(鏡・勾玉)(⑩)や、 日下ヶ塚古墳の調査成果を取り込んだ 擬人化キャラの『日下ヶ塚』ちゃん(⑪) の誕生。ぬいぐるみやアクリルスタン ドなどの関連グッズも販売。	・キャラクターの世界観に沿った 広報方法の開発が必要である。
	イベント	・磯浜古墳群を活用した大洗観光協会 主催の『うみまち照らす in 磯浜古墳 群』が開催され、古墳の前方部をスカ イランタンの光で復元するライトアッ プ、埴輪の露出展示、古代をイメージ する舞台発表などを行った(⑫)。普段、 古墳を訪れないカップルや若いファミ リー層などが足を運び、新たに古墳や 埴輪に触れる機会となった。	・磯浜古墳群で開催する歴史的背 景や価値についての伝え方が大 切である。
	SNS	・生涯学習課文化財係がFacebook『大 洗町の歴史と文化』とX『大洗町の歴史 と文化』を管理・運営する。古墳の価値、 日々の景観や季節の移ろい、イベント の告知や報告などの情報を発信し、古 墳ファンや大洗町ファンなどの比較的 若い世代と緩やかに繋がっている。	・情報の速報性や、コアなファン とのネットワークを構築する上 で有効であるが、多様な人々へ の周知には課題がある。

表4-14 活用の現状と課題3 (指定地全体)



①町立大洗小学校のクラブ活動



②県立大洗高等学校の授業



③茨城大学学生による調査



④町中央公民館の歴史講座



⑤町高校生会による考古学企画展の準備



⑥磯浜古墳群の史跡探訪



⑦考古学企画展『常陸鏡塚』

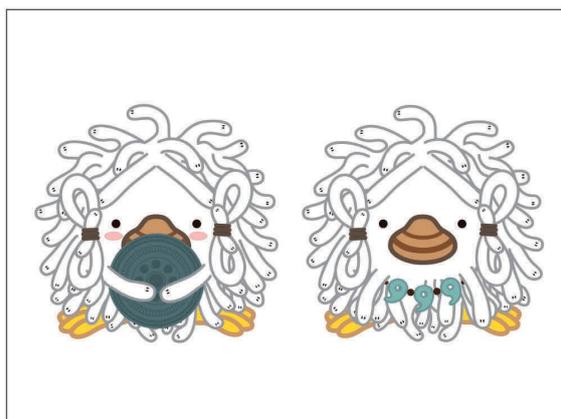


⑧シンポジウム『茨城県の古墳』

写真4-1 活用の現状と課題



⑨古墳クッションの製作



⑩町公式キャラクター『アライツペ』古墳 Ver.



⑪擬人化キャラクター『日下ヶ塚』ちゃん



⑫イベント『うみまち照らす in 磯浜古墳群』

写真4-2 活用の現状と課題